2017
COLLEGE
GUIDE

神戸大学医学部保健学科

学科紹介

Faculty of Health Sciences
Kobe University School of Medicine

CONTENTS

学科長メッセージ …… 2
アドミッションポリシー・ディプロマポリシー …… 3
TOPICS …… 4
専攻構成 …… 6
カリキュラム …… 14
教員紹介 …… 16
写真で見る神戸大学 …… 21
キャンパスシーン …… 22
私たちの大学生活 …… 24
卒業生からのメッセージ …… 26
CLUB & CIRCLE …… 30
INFORMATION …… 32
神戸大学医学部保健学科の沿革　神戸大学附属図書館保健科学図書室 …… 33

学科長メッセージ

神戸大学医学部保健学科長　木　戸　良　明

神戸大学は、国際都市神戸に基盤を有する総合大学で、世界各地に研究拠点を持っています。その起源は官立神戸高等商業学校に遡ります。創立以来 110 年以上が経過していますが、伝統的に「学理と実践（実際）の調和」をその建学精神としてきました。医学部保健学科は、1994 年に設立された神戸大学の中でも比較的新しい学科ですが、神戸大学の精神は脈々と受け継がれています。

皆さんは、入学後最初の1年間を六甲台で過ごされますが、高校とは違った大学の規模の大きさと自由で高い教育レベルを感じ取っていただければと思います。２年生からは、名谷キャンパスで専門教育が始まります。医学部保健学科は、看護学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の４専攻で構成されております。これまでに多くの優れた看護師、助産師、保健師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士を医療の第一線に送り出してきました。神戸大学で学ぶ皆さんが専門で学ぶのはそれぞれの国家資格取得のための科目はもちろんのこと、「健康科学」について、広く専門的な知識を身につけていただきたいと思っています。そして、高いレベルの専門性を身につけたプロフェッショナルとして医療界で活躍していただきたいと期待しております。実際に、本学科の卒業生は、国家資格を取得し、医療専門職に就くだけでなく、行政機関、教育機関、研究所、国際保健機関や健康科学に関連した企業に就職する学生が多い事も特徴であります。

保健学科における教育の特徴としては、

（1）他の大学に先駆けて、多くの医療職種と協働してチーム医療を行っていくための多職種間協働 教 育（IPE: Interprofessional Education）をとりいれ、卒業後の多職種間協働実践（IPW: Interprofessional Work）まで継続してきた歴史があります。

（2）高度な専門知識と幅広い学識を持つ医療の専門人材を育成しております。看護学専攻では、助産師・保健師教育を大学院に移行し、学部の間は看護学の基礎から応用までの知識をしっかりと身につける期間としました。

（3）４年次の卒業研究に十分な時間をかけて、レベルの高い研究に触れるとともに、将来の多様な進路の礎となるように指導しております。

学部学生の間は、多くの授業・実習があり、知識・学識が増えるにつれ、さらに広く深く学びたいという学生の大学院進学数が近年増加しております。大学院保健学研究科には、博士前期課程（修士）各学年 54 名、博士後期課程（博士）各学年 25 名の定員があります。大学院では、看護学、病態解析学（検査技術学）、リハビリテーション科学（理学・作業療法学）の基幹領域に加え、地域保健学領域、国際保健学領域の２つの融合領域があります。

以上のように、日本有数の総合大学である神戸大学で学んでいる利点を生かし、様々な分野の知識を習得し、多くの出会いと交流を経験して、「医療人として」そして「人間として」大きく成長した人材を育成したいと考えています。

アドミッションポリシー・ディプロマポリシー

■ 神戸大学医学部保健学科が求める学生像（アドミッション・ポリシー）

医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としています。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目標としています。このため次のような学生を求めています。

医学部・保健学科の求める学生像

1.明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持った学生
2.ひとに対する深い思いやりと協調性、優れたコミュニケーション能力を持った学生
3.自ら問題を発見し、解決にあたることができる学生
4.保健医療・健康科学を学ぶために必要な自然科学および社会科学の基礎知識と日本語・外国語の基礎学力を備えた学生

■ 神戸大学医学部 保健学科 学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

神戸大学医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としている。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。

この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。

学位：学士（看護学） 看護学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、医学部保健学科看護学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部保健学科看護学専攻に４年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーが定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科看護学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」
◦豊かな人間性と教養を持ち、保健医療における高い倫理性、柔軟性、協調性、当事者性を身につけた看護専門職者となるための基礎的能力
◦ひととして、看護専門職者として生涯成長していく能力

「創造性」
◦論理的に事象を解釈し、ケアリングの視点を持ち、よりよいケアを創造する能力
◦主体的・自律的に行動し、看護の独自性・専門性を探求する能力

「地域性・国際性」
◦多様な文化・価値観を尊重し、地域・国際社会で活躍する基礎的能力
◦地域・国際社会における多彩なWell-beingと健康課題に関心をもち探求する能力

「専門性と協働」
◦人々の生活の質（QOL）の向上をめざし、幅広い知識と確かな技術・豊かな感性を備えて看護実践する能力
◦医療の基礎学力と専門知識を習得した看護専門職者として、保健医療福祉チームにおいて協働する能力
◦科学的・論理的思考力、実行力、コミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮する能力

学位：学士（保健衛生学） 検査技術科学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、保健学科検査技術科学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部保健学科検査技術科学専攻に４年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科検査技術科学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理観」
◦医療チーム・研究チーム・教育チームの一員として卓越した人間性を備え、高い倫理観にもとづいた行動により、社会の第一線で活躍しうる臨床・研究・教育活動の能力

「創造性」
◦進取の気質と問題解決に対する柔軟な想像性を身につけ、社会に貢献できる新たな技術や機器開発に取り組む能力

「地域性・国際性」
◦疾病の診断・早期発見・治療評価や健康状態の把握に対して、地域医療の中心を担う能力
◦国際的な視野から検査技術と医療を俯瞰し、英語を用いて学術的に適切な情報収集と発表を行い、第三者と良好な意思疎通がはかれる能力

「専門性と協働」
◦医療検査技術についての高度の専門知識と検査技能を得るための主体的学習能力
◦医療従事者・自然科学研究者と協調して人間福祉の向上に寄与する能力

学位：学士（保健学） 理学療法学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、医学部保健学科理学療法学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部保健学科理学療法学専攻に４年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科理学療法学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」
◦豊かな人間性と保健医療における高い倫理性を身につけた保健医療専門職者として臨床に携わる能力

「創造性」
◦標準的な理学療法の理論と技術を修得し、旺盛な探究心と創造力に加えて、課題を設定し解決することにより、理学療法とその関連分野の未来を創造する能力
◦先人の知識を尊重し、基礎・臨床研究を通じてエビデンスを創造する能力

「地域性・国際性」
◦多様な地域課題を把握し、貢献するための社会性を備えた能力
◦理学療法の理論と技術を通じて、国際的に活躍できるための基礎的な能力

「専門性と協働」
◦医療の基礎学力と高度な専門知識を習得した専門職として、対象者や他専門職と相互に信頼し、良好な人間関係を築くことにより保健医療福祉チームにおいて協働できる能力

学位：学士（保健学） 作業療法学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、医学部保健学科作業療法学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

・本学部保健学科作業療法学専攻に４年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」
◦作業療法専門職としての豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、社会の発展に積極的に寄与する能力
◦個々人の人権を尊重し、深い共感性を持って、対象となる方々の特性を理解し、自立に向けた支援を提供する能力

「創造性」
◦探究心と創造力を持って課題を設定し、解決できる実践的な能力
◦問題を解決するために、科学的な分析・考察をし、論理的に考える能力

「地域性・国際性」
◦幅広い視野を持ち、作業療法に関わる専門的知識を活用して多職種連携により地域社会へ貢献できる能力
◦グローバルな視点で自らの課題を整理・理解するとともに、的確なプレゼンテーション、円滑なコミュニケーションをする能力

「専門性と協働」
◦医療・保健・福祉など各分野における高度な作業療法学の専門的知識および技術を習得するために主体的かつ継続的に学習する能力
◦高度な医療専門職として、チーム医療の現場で関連職種との優れたコーディネート能力を発揮し、協働する能力

TOPICS

国際保健に関連する活動

近年、医療専門職者が国際保健分野で実践的に活動する機会が増えるとともに、我が国に対する開発途上国からの期待は益々高まっています。そこで保健学科では、大学で修得した学問の知識とスキルをより実践的なものにするとともに、チャレンジ精神やコミュニケーション能力を養うために、環太平洋諸国の大学と提携し、学部生の双方向型の交流を実施しています。「環太平洋諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」と名付けたこのプログラムは総合保健医療を実践出来る国際的な高度保健専門職者ならびに教育・研究者を養成しようとするもので、所定の単位も認定されます。

海外の大学附属病院での実習・演習

地域連携センター

地域連携センターは、人文学研究科、農学研究科に設置された地域連携センターと協力して、豊かな自然、文化そして健康に恵まれたコミュニティづくりをめざしています。保健学研究科のテーマは、【少子高齢社会に適応した街づくり】です。研究科の構成員が培ってきた専門的知識を、乳幼児を持つ家族、高齢者そして障害を持つ人々が安心して暮らせる街づくりに活かそうとしています。地域連携センターは、保健学研究科と地域をつなぐ窓口の役割を担っています。現在、神戸市など兵庫県下の自治体、NPOと連携して、7つの事業が進行中です。また、活動に参加するボランティアへの研修事業も実施しています。毎週、実施されている教室活動のほかに、乳幼児をもつ保護者を対象としたプログラムや認知症の方のご家族を対象としたセミナーが実施されています。これらの活動概要はホームページ http://www.edu.kobe-u.ac.jp/fhs-renkei/ で、みることができます。

IPW

IPW(Interprofessional Work) とは複数の専門職者がそれぞれの技術と役割をもって共通の目標を目指す協働のことです。現代社会における多様化・複雑化した保健医療福祉の課題とニーズに応え、対象者に安心・安全な質の高いサービスを実践するためには、多職種の協働が重要です。神戸大学医学部保健学科では、神戸大学医学部医学科、神戸薬科大学と連携し、1年次から4年次まで、体系的かつ有機的にIPWを習得できるカリキュラムを備えています。1年次の初期体験実習、4年次のIPW統合演習では、連携校が一堂に会し、医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、薬剤師を目指す学生のそれぞれが相互理解し、相互作用しながら、多職種の視点から対象者を捉え、ケアすることを合同で学びます。チームメンバーとして互いに尊重し、理解し、情報交換する過程を通して保健医療福祉の将来を担う、IPWの実践者の素養を身につけます。

解剖学実習

解剖学は看護学や検査技術科学、理学・作業療法学の基礎となる重要な科目の1つです。神戸大学医学部保健学科では、1年次後期から始まる解剖学の講義を通して身体の構造や機能を学んだ後、2年次後期に4専攻全ての学生を対象にして解剖学実習を行っています。この実習では体内にある臓器の形や大きさ、臓器相互の位置関係などを直視下で観察して、講義で学んだことを3次元的に深く理解するとともに、人体に個体差があることを理解します。さらに解剖学実習を通して生命の尊厳についても学んでいきます。この実習を通して学生達は医療職者を目指すことについて深く考え、自覚を強く持つようになります。

英語コース（International Course for Health Sciences: ICHS）

平成24年度より前期課程の大学院生を対象に英語コース（International Course for Health Sciences: ICHS）を開講しました。平成26年度からは後期課程の大学院生にもICHSが開講されました。これは、大学院生がその修学期間を通じて英語のみで単位を取得し、修了することができるコースです。専任教員による英語講義に加え、ネイティブ教員による通年の講義、また、夏季には東南アジアを中心とした諸外国からの講師によるSummer Educational Programを開講しています。本コースを受講することで、保健活動を展開するためのコミュニケーション能力や異文化理解能力を有し、海外における社会・経済状態や生活様式に適合した総合保健学を創造・実践することによって、国際機関を中心に国際貢献できるより高度な保健実践専門職者を養成することを目的としています。

家族支援専門看護師（家族支援 CNS）コース

近年、家族問題が多発することで、家族のもつ役割や機能が見直されています。看護学においても、「家族看護学」という新しい分野が誕生し、本学はそのフロントランナーです。本学の大学院博士課程前期課程には、わが国に6校しか認定されてない家族看護のスペシャリストの養成コースとして、家族支援専門看護師（CNS）コースがあります。CNSは、看護職の中では最上位の新しい資格で、看護界の将来を背負う役割が期待されています。2012年からは、診断・治療に関わり、ケア（看護）とキュア（治療）を融合した高度な看護実践を展開できる家族支援CNS教育課程（38単位制）を導入しています。本コースでは、研究から得たエビデンスや理論に基づいた家族支援を実践でき、国際的に活躍できる高度専門職業人の輩出を目指しています。

専攻構成

看護学専攻

看護学とは

看護学は、あらゆる「ひと」の「Life/生きること」の質を向上するため、人間の尊厳と権利を尊重し、ひとの「生命・生活・人生」と、共に影響しあう「環境」、そして、それらすべてを対象として包括的にとらえ、支援するための実践科学です。

本学では、人間の尊厳と権利を重視する看護専門職の基盤となる人間性、倫理性、創造性、専門性を育成するために、ケアリングを軸として、経験学習を重視した、卓越した看護学教育を提供します。さらに、地域性・国際性および協働の能力を培うために、保健学ならびに関連諸学問についての教育を提供します。

看護学の教育について

看護学専攻の教育の目的は、次のとおりです。

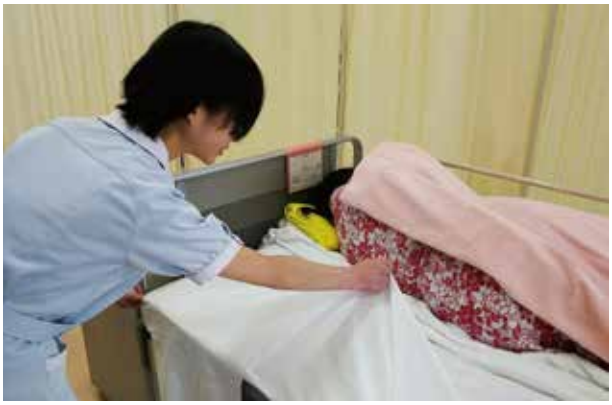
- 看護専門職者として豊かな人間性と高い倫理性を身につけ、看護学の知とスキルを駆使し、対象ならびに対象を取り巻く環境と相互に作用しながら、最良のケアを創造し実践する人材を輩出すること。
- 保健医療福祉の領域において、看護専門職者として他職種と協働しながら看護の独自性・専門性を発揮し、地域・国際社会に貢献できる人材を輩出すること。
- ひととして、看護専門職者として生涯成長し続ける人材を輩出すること。

4年間で看護師となるための充実した看護学教育を提供します。

卒業後の進路について

卒業時には、学士（看護学）を取得できると同時に、看護師国家試験受験資格が得られます。
卒業後の進路は、医療施設への就職、大学院への進学などがあります。

◎平成28年度より保健師教育（保健師国家試験受験資格）および助産師教育（助産師国家試験受験資格）は、大学院（博士課程前期課程）で行っています。



これから看護職を目指す皆さんに、ある患者さんがお書きになった詩を贈ります。

〈 こころ 〉

先生が回診に来ます　看護師が検温に来ます
友達が見舞いに来ます
かわるがわるぼくを見下ろして　具合はどうですかと尋ねます
ぼくは、みんなを見上げて　相変わらずと答えます
あなただけです　ぼくと同じ低さに身をかがめて
話しかけてくれるのは
あなたは　ベッドのふちに両肘をかけてしゃがみ
肘の上に夢をのせてぼくをみつめ
車いすを持ってきたから　散歩にでようといいます
ぼくのこころははじめて輝き　あなたに向かって流れだすのです

患者さまの病だけでなく、患者さまのきもち・こころ、患者さまるごとを理解できる看護職者になってください。

専攻構成

検査技術科学専攻

検査技術科学専攻では何を学ぶか？

近年の医学および医療の分野における技術革新と発展には、優れた臨床検査技術の開発・応用が大きく寄与してきました。病気の早期発見、診断及び治療や健康状態の把握に必要な臨床検査は、今やまさに医療の中核的役割を担う1つの分野として位置付けられ、チーム医療においても中心的な立場に立っています。検査技術がこのように高度になって役割を広げ、医学・医療の向上に寄与するための重要な責務を負うようになった現在、その人材を養成する大学においては、より高度な知識及び技術と研究開発能力を獲得させる教育が必要です。検査技術科学専攻では、医療の重要な一角を占める臨床検査のプロフェッショナルを養成すべく、4年間の教育で臨床検査技師の国家資格を取得するために必要な履修をします。加えて、広く社会で指導的立場に立つ人材、研究職につく人材や国際的に活躍する人材の養成をも視野に入れて、生命科学や健康科学における幅広く学際的な教養や深い倫理性が身につくように、バランスのとれた教育カリキュラムを構成しています。また、必要な単位を取得すれば、健康食品管理士認定試験の受験資格を得ることもできます。

卒業後の進路について

検査技術科学専攻を卒業すると臨床検査技師国家試験の受験資格が得られます。卒業後すぐに就職する者はもちろん、大学院に進学する者も最終的には、臨床検査技師の国家資格を活用した進路を選んでいます。近年、本専攻では学部卒業後も大学院に進学し、修士号を取得してから就職する者が7、8割に達しています。大学院に進学する場合、2年間で修士号を取得して就職する他に、さらに学問を深めたい者は3年間の博士課程に進学して博士号を取得することが可能です。成績優秀者には飛び級制度もあります。就職については、幸い本学の卒業生はこれまで高く評価されており、病院就職希望者のほぼ全員が、近畿のみならず全国の中核病院に就職しています。また、検査センター、医療機器、試薬開発、治験関連などの企業に就職する者も少なくありません。大学教員、国公私立研究機関などの教育・研究職者も輩出しています。

遺伝子検査学実習

ウイルス検査学実習

臨床生理学実習

生体情報計測実習

病理組織細胞学実習

動物実験

検査技術科学専攻のトピックス（研究も含む）

検査技術科学専攻の教員は、大学院組織の病態解析学領域に属する教員が多く、いわゆる実験室での教育・研究が盛んです。そこでは生化学、分子生物学、生理学のような基礎医学から、免疫学、内分泌・代謝・糖尿病学、病理組織学、細菌学、血液学のような臨床医学まで、活発な教育・研究が行われています。また、大学院の国際保健学や地域保健学を担当し、地域や世界をフィールドにして感染症学や公衆衛生学などの教育・研究活動を展開する教員もいます。学部生は4年生になると1つの研究室に所属し、3年生までに学んだ知識をもとに、大学院生に混じって研究活動に参加して卒業研究を行います。多岐にわたる専門家のもとで、学部学生は生き生きと研究しています。このように大学ならではの研究・開発に直に触れることによって、実験の進め方や論理的な思考方法を学ぶことができます。卒業時には卒業研究論文集を作成し、研究成果の記録を長く保存します。

専攻構成

理学療法学専攻

理学療法とは

理学療法とは病気、けが、高齢、障害などによって運動機能が低下した状態にある人々に対し、運動機能の維持・改善を目的に運動、温熱、電気、水、光線などの物理的手段を用いて行われる治療法です。

理学療法学専攻では何を学ぶか

1年次では、神戸大学全学共通授業を通して広い視野で考えることができる教養を高めます。

2年次以降の専門科目では、基礎医学（解剖学・生理学・運動学など）と臨床医学（内科学・外科学・整形外科学・臨床神経学・精神医学・小児科学など）を学び、身体機能や精神機能、疾病について理解を深めます。それと並行して、リハビリテーション医学や理学療法学の専門科目を学びます。学内で学んだ知識や理学療法技術をより確かな能力に高めるために、病院や医院で臨床実習を行います。臨床実習では、経験のある臨床教育指導者から指導を受けながら患者さんを担当し、患者さんの失われた機能と残された機能を評価し、活用可能な機能を最大限に引き出す治療技術を修得していきます。授業や臨床実習を通して疑問に思ったことを研究課題として、学生は専攻教員の指導のもとで理学療法研究を行い、論理的な思考を集大成する卒業研究にも取り組んでいきます。

卒業後の進路について

卒業すれば、保健学士号が与えられ、理学療法士国家試験の受験資格が得られます。進路としては、一般病院や医院、リハビリテーションセンター、障がい者・高齢者の福祉施設、保健行政の専門職に就職します。また、理学療法能力をさらに高めるために、大学院博士前期課程（修士課程）に進学していきます。

理学療法士（PT）とは?

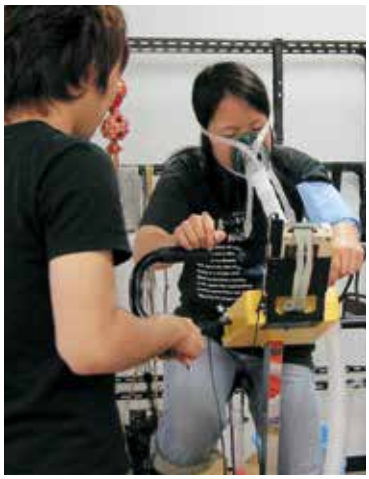
リハビリテーション医療の一員として、日常生活活動の再獲得を目標に運動療法や物理療法などの治療手段を用いて、障がい者にアプローチをします。最近では、リハビリテーション医学の枠を超え、障がいの予防、悪性腫瘍および進行性の難治性疾患などによる障がいに対する理学療法、あるいはスポーツ傷害や在宅療養している障がい者への理学療法を行っています。今日、疾病構造の変化や社会の要望に応じて、理学療法分野の診療業務が拡大してきています。理学療法学は実践的な学問で、今後の発展がますます期待されている学問領域です。

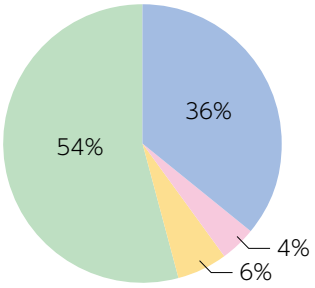
理学療法学専攻のトピックス

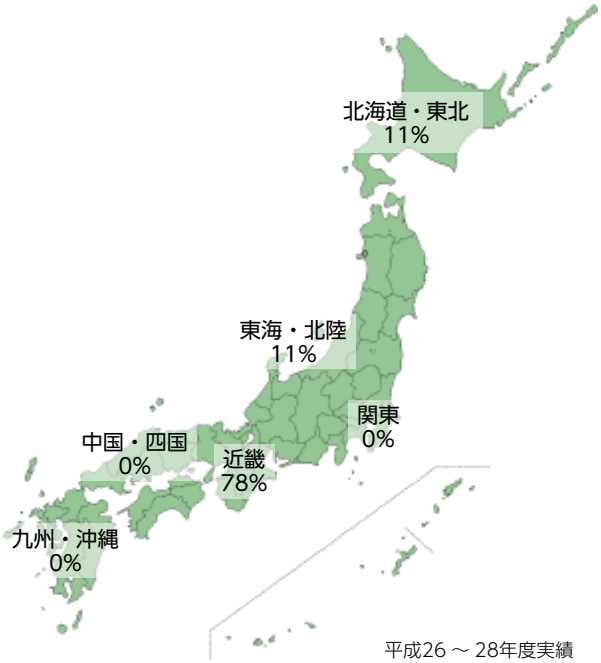
理学療法学専攻では、解剖学、生理学などの基礎医学との関連を重視して、科学的視点を持って理学療法学の理論と治療技術を学ぶことができます。

また、それを基に対象者の問題を解決し、全人的に援助する能力を養います。

基礎医学的手法を用いた研究の他に、呼気ガス分析装置などを用いた運動による代謝の変化の研究、歩行分析装置や重心動揺計を用いた姿勢・動作・歩行分析の研究、臨床医学的観点からの研究を行うことができます。







平成26～28年度実績

卒業生は幅広い分野で活躍しています

本学の卒業生は、大学病院、国立病院機構、地域の中核病院、回復期リハビリテーションを実施する専門病院、介護老人保健施設など、医療や福祉に関係する様々な現場で活躍しています。

また、医療や福祉関係の一般企業や教育研究機関などへ就職するものもおり、幅広い分野においても活躍しています。

近年は大学院への進学者も増加しており、研究や調査を通じて、理学療法学の基盤確立に貢献しています。

卒業生は全国で活躍しています

地域別にみた卒業生の進路は、近畿圏を中心に、広く全国に及びます。

専攻構成

作業療法学専攻

作業療法とは

作業療法は、身体や精神に障害のある人たち(子供から高齢者まで)に対して行われるリハビリテーションサービスの一分野です。略してOT（Occupational Therapy）と呼ばれています。作業療法は手工芸だけでなく、日常生活における諸動作（たとえば食事や更衣動作など）や仕事・遊びなど、人間に関わるすべての諸動作（作業活動）を利用します。これらの作業活動によって、対象者の持っている望ましい身体機能や精神反応を引き出し、再び元の社会生活に適応できるよう援助します。悪いところを治すだけではなく、良いところを伸ばすという両面にアプローチする視点を持ち合わせています。

作業療法学専攻で学ぶこと

神戸大学全学共通授業にて個人の教養を高め、基礎科目でまず基礎医学と臨床医学を学び、人間についての理解を深めます。それと平行し、徐々にリハビリテーション医療や作業療法の基本的な理論・技術と心理学的援助に重点をおき、専門基礎科目において作業の種類や特徴・実施方法を学びます。専門科目（身体・精神・発達障害作業療法学）では、作業療法の臨床現場で遭遇する身体障害・精神障害・神経機能障害・発達障害・内部障害などの臨床的作業療法に重きをおき、様々な障害に応じた作業療法の知識や技術を学びます。

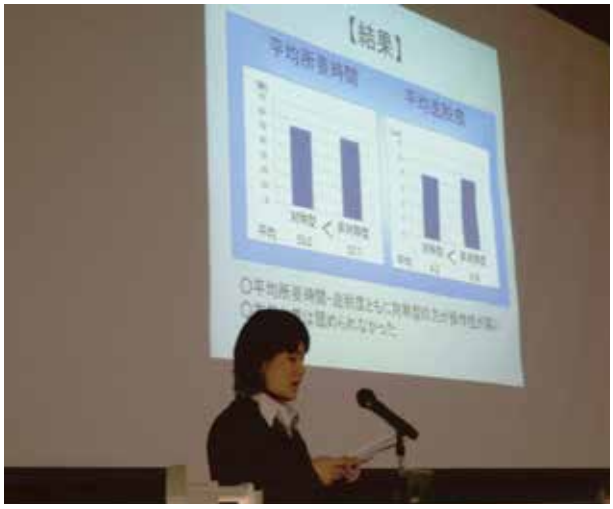
急性期医療から地域医療，保健，福祉に貢献できるよう，運動学的・生理学的・精神医学的・社会学的な研究を背景とした基礎作業療法学教育と、障害を分析し援助方法を探究する研究や臨床での実践を背景とした臨床的教育が系統的に準備されています。したがって作業療法の対象となる人たちのあらゆるニーズに対応できる能力を高めることができます。

最終段階の臨床実習では病院など実際の医療現場で患者さんを担当し、現場の先輩作業療法士から指導を受けて、作業療法を試行しながら実力をつけます。

身体障害生活技術論実習（自助具の作成）

基礎作業療法学実習（陶芸）

検査測定実習



卒業研究発表

作業療法学専攻のトピックス

作業療法学専攻では、基礎医学を背景とした根拠のある作業療法学の理論と治療技術を学ぶことができます。特に対人援助技術の教育にも取り組んでいます。

卒業研究では、個別指導を受けながら、学生がもつ身近な疑問を研究テーマに整理し、テーマにあわせた研究手法を選び、研究計画を立て、実践し、まとめるという研究の一連の流れを経験し、学会で発表できる能力を養っています。

また専攻内の教員は、作業療法関連書籍を執筆、編集しています。

卒業後の進路について

卒業時には、学士（保健学）を得ると同時に、作業療法士国家試験受験資格が取得できます。卒業後は、病院・リハビリテーションセンター・療育センター・福祉センター・デイケア施設・老人保健施設などでの勤務のほか、大学院へも進学します。

カリキュラム

看護学専攻

1年	2年	3年	4年
全学共通授業科目 語学、情報基礎、教養原論など			
専門基礎分野 人体の構造と機能 身体のしくみと働き、生化学、解剖学演習			
	疾病の成り立ちと回復過程の促進 感染看護論、症状マネージメント論、疾病の成り立ちと治療など		卒業研究
専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 保健学概論、健康科学概論、保健医療福祉論、保健行政論、公衆衛生学など			
専門分野 専門分野Ⅰ（基礎看護学） 看護の知への誘い、看護原論、生活援助技術演習、治療援助技術演習など			
	専門分野Ⅱ（成人看護学・老年看護学・小児看護学・精神看護学・母性看護学） 病い論、老人看護論、メンタルヘルス論、慢性期にある人の看護、小児看護学、母性看護学、フィジカルアセスメント演習、リフレクション演習など		
専門分野 統合分野　IPW概論、地域看護学概論、国際保健、災害保健、在宅看護学、家族看護学、看護政策論など			
専門分野 臨地実習　初期体験実習、看護実践基盤実習、地域看護実習、看護実践展開実習、統合看護実習			

検査技術科学専攻

1年	2年	3年	4年
全学共通授業科目 語学、情報基礎、教養原論など			
専門基礎分野 人体の構造と機能 生理学、解剖学（実習含む）、免疫学など			
	医学検査の基礎と疾病の関連 基礎臨床検査学、分子生物学概論、薬と生体反応、病態栄養学など		
	保健医療福祉と医学検査 公衆衛生学、環境・食品・産業衛生学、保健行政論など		
	医療工学・情報科学　医療システム論、医療情報処理学など		
専門分野 生物化学分析検査学　生化学、臨床化学、遺伝子検査学、放射性同位元素検査技術学など			
	臨床病態学　臨床医学総論、臨床検査医学、検査情報解析学など		
	病因・生体防御検査学 臨床免疫学、臨床細菌検査学、ウイルス学など		卒業研究
	生理機能検査学 臨床生理学、生理機能検査学、生体情報計測学、総合画像診断学など		
	形態検査学 病理学、臨床血液学、病理組織細胞学、寄生虫検査学など		臨地実習
検査統合管理学　臨床検査概論、検査管理総論、機器分析学、検査統合実習など			

理学療法学専攻

1年	2年	3年	4年

専門基礎分野

- 全学共通授業科目
  語学、情報基礎、教養原論など
- 人体の構造と機能及び心の発達　解剖学、生理学、運動学など実習も含む
- 保健医療福祉とリハビリテーションの理念
  IPW概論、現代医療と生命倫理、リハビリテーション概論、国際保健、災害保険
- 疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進
  病理学、整形外科学、臨床神経学、臨床心理学、小児疾病論、内部障害学、外科学、スポーツ医学など

専門分野

- 基礎理学療法学　理学療法概論、統計学、理学療法研究法、理学療法研究法演習
- 理学療法評価学
  理学療法評価学、理学療法評価学実習、画像診断解析学
- 理学療法治療学
  運動治療学、物理治療学、義肢装具学、日常生活活動学、筋・骨格系障害理学療法学、神経系障害理学療法学、内部障害理学療法学など
- 地域理学療法学　保健学概論、保健福祉論、保健行政論、地域理学療法学、老人保健福祉施設実習
- 臨床実習
- 卒業研究

作業療法学専攻

1年	2年	3年	4年

専門基礎分野

- 全学共通授業科目
  語学、情報基礎、教養原論など
- 人体の構造と機能及び心の発達　解剖学、生理学、運動学など実習も含む
- リハビリテーション概論
- 疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進
  病理学、整形外科学、臨床神経学、臨床心理学、小児疾病論、精神医学、内部障害学、外科学、スポーツ医学など

専門分野

- 基礎作業療法学　作業療法概論、統計学、基礎作業学、基礎作業学実習
- 作業療法評価学
  身体障害、精神障害作業療法評価学
  発達障害評価額など実習も含む
- 作業療法治療学
  作業療法対人技術論、身体障害作業療法学、身体障害生活技術論、精神保健作業療法学、老年期障害学、リハ工学など
- 地域作業療法学　保健学概論、保健福祉論、保健行政論、在宅援助論
- 臨床実習
- 卒業研究

教員紹介

看護学専攻

石井 豊恵（いしい あつえ） 教授

○プロフィール
聖路加看護大学卒業、大阪大学大学院博士後期課程修了（保健学博士）、救命救急、循環器看護の臨床を経て現職。

○教育・研究分野など
主に基礎看護学関連科目を担当します。研究は、看護者が働きやすい環境、道具を整える事や看護の技術に関して取り組んでいます。それを対象者の安全と安楽に繋げたいと思っています。

和泉 比佐子（いずみ ひさこ） 教授

○プロフィール
栃木県出身。聖路加看護大学卒後、行政保健師として勤務しました。札幌医科大学保健医療学部准教授を経て2015年から現職。

○教育・研究分野など
専門領域は公衆衛生看護学です。主に地域看護・在宅看護に関連した科目を担当します。健康づくりや地域看護アセスメントに関する研究と保健師の現任教育に取り組んでいます。

グライナー智恵子（ちえこ） 教授

○プロフィール
岩手県出身。都内の大学病院に9年間勤務した後、教員になりました。大阪大学大学院博士後期課程修了。看護学博士。

○教育・研究分野など
専門は老年看護学で、教育では老年看護に関連した科目を担当します。研究では、認知症高齢者とその家族を支援するための研究に取り組んでいます。

齋藤 いずみ（さいとう） 教授

○プロフィール
札幌から神戸に。筑波大学大学院医学研究科博士後期課程修了。東京の日赤医療センターで、助産師として沢山の臨床事例を体験後、北海道大学助教になり教員開始。

○教育・研究分野など
主に母性看護学と助産学関連科目を担当。「分娩・周産期の安全と質の保証」が研究テーマです。実証的データから、母性看護や助産のエビデンスを確立したいと思います。現在、保健師・助産師の大学院の設立準備に奔走中です。神戸大学でしかできない特徴ある大学院を目指します。

塩谷 英之（しおたに ひでゆき） 教授

○プロフィール
神戸大学医学部卒業、神戸労災病院、神戸大学第一内科（現循環器内科）、兵庫県立成人病センターを経て現在に至る。

○教育・研究分野など
臨床生理学、生理機能検査学総合画像診断学などを担当します。臨床生理学を基盤としてユニークな研究を行い、その結果を臨床の場に還元し、多くの人々の健康維持に貢献することを目指しています。

高田 哲（たかだ さとし） 教授

○プロフィール
昭和60年神戸大学大学院医学研究科修了、医学博士。日本小児科学会・小児神経学会専門医、小児精神神経学会認定医。趣味は山歩き。

○教育・研究分野など
【障害をもつ子どもとその家族への支援】が教室のテーマです。神戸市や兵庫県など自治体と連携して多くのプロジェクトを行っています。専門の違う大学院生、ゼミ生が協力して研究を進めています。

法橋 尚宏（ほうはし なおひろ） 教授

○プロフィール
1993年東京大学大学院医学系研究科博士課程中退。東京大学講師などを経て、2006年より神戸大学教授。

○教育・研究分野など
小児看護学、家族看護学が専門。著書は『新しい家族看護学：理論・実践・研究（法橋尚宏編集）、メヂカルフレンド社、2010』など、100冊以上。

松尾 博哉（まつお ひろや） 教授

○プロフィール
産婦人科医です。
これからの周産期医療を支える助産師・看護師の育成に力を注いでいます。

○教育・研究分野など
女性の性周期に関連する健康障害である性感染症、月経前緊張症、更年期障害、骨粗鬆症が研究テーマです。少しでも女性の健康向上に貢献できればと取り組んでいます。

宮脇 郁子（みやわき いくこ） 教授

○プロフィール
明石生まれ。神戸大学医療短大（本学の前身）卒業後、循環器看護の臨床を経て東京医科歯科大学院で成人看護学を学びました。

○教育・研究分野など
専門分野は慢性看護学・循環器看護学です。患者さんご自身が、日々の生活の中でうまく病気と向きあい、できるだけ負担が少ない状況で療養行動が継続できるための看護について教育・研究を行っています。

上杉 裕子（うえすぎ ゆうこ） 准教授

○プロフィール
広島県出身。大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了（看護学博士）。7年の臨床経験の後、看護教育の道に進みました。

○教育・研究分野など
教育は主に基礎看護学科目を担当しています。本学の取り組む多職種協働のためのIPW統合演習や、国際交流にも携わっています。研究は運動器疾患患者のQOLや、国際看護・異文化看護に関する内容に取り組んでいます。

小寺 さやか（こてら） 准教授

○プロフィール
京都市出身。神戸大学大学院博士後期課程修了。行政保健師、青年海外協力活動等の経験を経て教員になりました。

○教育・研究分野など
主に地域看護学関連の講義と臨地実習を担当します。公衆衛生看護を担う保健師の専門能力向上や保健師教育、国際看護協力活動等をテーマに研究に取り組んでいます。

千場 直美（せんば なおみ） 准教授

○プロフィール
熊本県出身。神戸大学大学院医学系研究科博士課程後期課程修了。看護師・助産師の臨床経験後、教員になりました。

○教育・研究分野など
主に助産学を担当しています。助産学は周産期をメインに、女性の一生の健康に関わる専門分野です。女性のライフサイクルにおける健康維持増進に関する研究に取り組んでいます。

中山 貴美子（なかやま きみこ） 准教授

○プロフィール
神戸大学大学院 医学系研究科博士課程修了（博士 保健学）。自治体保健師として勤務しました。

○教育・研究分野など
公衆衛生看護学に関する教育・研究を担当します。特に、保健師による地区組織活動の支援に関する研究に取り組んでいます。

新野 由子（にいの よしこ） 准教授

○プロフィール
神戸出身、助産師。臨床経験後、アメリカで修士号取得（生命倫理学）。厚生労働省勤務後、教員。医学博士。

○教育・研究分野など
母性看護学、助産学を担当します。思春期から更年期までの生涯を通じた女性の健康等の研究に取り組んでおり、その結果を行政施策等へ結びつけていきたいと思っています。

三浦 靖史（みうら やすし） 准教授

○プロフィール
神戸大学医学部医学科卒業、神戸大学大学院医学研究科修了。リハビリテーション、リウマチ、整形外科専門医

○教育・研究分野など
リハビリテーション概論、スポーツ医学、IPW概論などを担当しています。関節リウマチ、身体障害者補助犬、がんリハビリ、旅行医学などに関する研究を行っています。

中西 泰弘（なかにし やすひろ） 講師

○プロフィール
愛媛県出身、神戸大学医療技術短期大学部、佛教大学文学部、大阪教育大学大学院を卒業して現在に至る。好きなものはサッカーと宝塚歌劇です。

○教育・研究分野など
主に基礎看護学領域の講義、演習と実習を担当します。技術教育を実践しながら、技術の習得方法に関する研究や教育方法に関する研究などに取り組みたいと考えています。

福田 敦子（ふくだ あつこ） 講師

○プロフィール
兵庫県生まれ。神戸大学医技短大学部看護卒業、神戸大学病院看護師を経て教員に。佛大卒業、本学大学院修士・博士修了。

○教育・研究分野など
病院で手術等、治療を受ける患者・家族の看護の講義および実習を主に担当します。主な研究は、外来がん化学療法を受けている患者の看護に関することです。

細名 水生（ほそな みお） 講師

○プロフィール
東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科総合保健看護学専攻博士後期課程を修了。同大学医学部附属病院血管・肝胆膵・食道胃外科病棟に勤務。

○教育・研究分野など
主に看護実践学（基礎看護）に関する授業を担当しています。研究は、臨床看護、看護実践、看護教育、健康情報分析学に関するテーマで取り組んでいます。

本田 順子（ほんだ じゅんこ） 講師

○プロフィール
本学保健学科、博士後期課程修了（保健学博士）。神戸大学医学部附属病院こどもセンターでの勤務を経て現職。

○教育・研究分野など
主に小児看護学・家族看護学に関する講義や実習を担当しています。家族看護学に興味をもち、家族のアセスメント方法や家族支援に関する研究に取り組んでいます。

石井 美由紀（いしい みゆき） 助教

○プロフィール
神戸大学医学部保健学科卒業、同大学院保健学研究科博士課程修了（保健学博士）。行政保健師の経験を経て現職。

○教育・研究分野など
公衆衛生看護学関連の講義や実習を担当します。研究では保健師による発達障害児の子育て支援や子ども虐待予防に関する研究に取り組んでいます。

岩﨑 三佳（いわさき みか） 助教

○プロフィール
兵庫県出身。助産師。北海道医療大学大学院修士課程修了。病院で臨床経験後バングラデシュにて母子保健活動に従事。

○教育・研究分野など
母性看護学・助産学の演習及び実習を主に担当。研究者としては、発展途上ですが、今までの経験から看護の質の評価について理解を深めて、社会還元できればと考えています。

内村 利恵（うちむら りえ） 助教

○プロフィール
大阪府出身。神戸大学医学部保健学科卒業後、看護師、保健師として勤務しました。神戸大学大学院博士前期課程修了。

○教育・研究分野など
地域看護学・在宅看護学の実習等を担当します。研究テーマは、虐待発生予防としての医療機関と保健師の連携等、行政保健師の専門性に関することです。

賀数 勝太（かかず しょうた） 助教

○プロフィール
本学保健学科看護学専攻を卒業後、同大学院保健学研究科博士前期課程修了。神戸大学医学部附属病院のICUでの臨床経験を経て現職。

○教育・研究分野など
小児看護学・家族看護学に関する講義や実習を中心に担当しています。予防看護学と家族看護学の融和に可能性を見出し、様々な家族現象のスクリーニングとケアリングに関する研究に取り組んでいます。

齊藤 奈緒（さいとう なお） 助教

○プロフィール
本学保健学科、博士課程修了。保健学博士。国立がんセンター中央病院、訪問看護で6年間臨床経験を経て現職。

○教育・研究分野など
成人看護学を主に担当しています。心臓デバイス植込み患者他、慢性の病を抱えて生きる人々への療養支援に関する研究に取り組んでいます。

清水 彩（しみず あや） 助教

○プロフィール
本学学部卒業後、都内近郊の私大で臨床に従事し、進学後は教育に場をかえ、久しぶりに神戸の地へ舞い戻りました。

○教育・研究分野など
助産・母性分野の講義と実習のサポートをしています。赤ちゃんの能力や周産期にあるご家族に役立つ情報を発信する研究および母性看護学教育をめざしています。

正垣 淳子（しょうがき じゅんこ） 助教

○プロフィール
本学卒業後臨床経験を経て、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士前期課程を修了し専門看護師となりました。

○教育・研究分野など
主に入院や外来で治療を受ける患者・家族の看護についての実習や講義を担当します。また、研究では、入院を繰り返す慢性心不全患者に関する研究に取り組んでいます。

築田 誠（つくだ まこと） 助教

○プロフィール
大阪府出身。本学を卒業後、ICU・CCU、外科、泌尿器科の看護師として勤務後、教員となりました。神戸大学大学院博士前期課程修了。

○教育・研究分野など
呼吸療法認定として呼吸器ケアの教育を実践していたことがきっかけで、呼吸器ケアの教育プログラムの開発を研究テーマとしています。科学的看護論を軸とした看護教育を行っていきたいです。

戸田 まどか 助教

○プロフィール
東京出身です。大学病院の産科・NICUに助産師として勤務後、神戸大学大学院博士前期課程を修了し、現在に至ります。

○教育・研究分野など
母性看護学、助産学を担当しています。新生児と母親、そして家族に対する入院中から退院後への継続した看護支援について興味を持ち、現在も学び続けています。

廣田 美里（ひろた みさと） 助教

○プロフィール
神戸大学医学部保健学科卒業後、精神神経科病棟で精神科看護を実践していました。

○教育・研究分野など
精神看護論、看護実践活動実習Ⅰ（精神）等を担当しています。臨床経験を活かしながらも、固定観念にとらわれない看護教育、研究を目指しています。

藤本 浩一（ふじもと ひろかず） 助教

○プロフィール
大阪出身。神戸大学医学部保健学科を卒業後、大学病院精神神経科病棟で8年間勤務。同大学院博士前期課程修了後、現職です。

○教育・研究分野など
主に精神障害にかかわる看護の講義と実習を担当します。学生時代に惹かれて進んだ、この分野の奥深さと魅力を身をもって感じる今日この頃です。

三谷 理恵（みたに りえ） 助教

○プロフィール
岡山県出身。神戸大学医学部保健学科卒業後、神戸大学病院にて5年勤務。その後、本学博士前期課程修了。

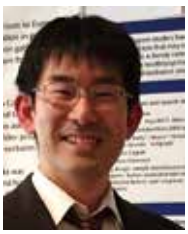
○教育・研究分野など
基礎看護学にかかわる演習・実習・講義を担当しています。臨床の場で看護を学ぶことに興味があり、主に看護教育にかかわる研究に取り組んでいます。

山口 裕子（やまぐち ゆうこ） 助教

○プロフィール
奈良県出身。京都大学医学部人間健康科学科看護学専攻を卒業後、同大学附属病院で臨床経験を積みました。その後、神戸大学大学院保健学研究科博士課程前期課程修了し、現職に至ります。

○教育・研究分野など
老年看護学分野の教育・研究を担当しています。アジア諸国の健康維持・増進に関わることをテーマに研究に取り組んでいます。

龍野 洋慶（りゅうの ひろちか） 助教



○プロフィール
大阪府出身。本学卒業後、病棟・老健・訪問看護等で13年間勤務しました。保健学博士（大阪大学）。

○教育・研究分野など
老年看護学の講義や実習を担当します。研究は、介護サービス利用者と家族介護者の支援について追跡調査をしています。また、地域在住高齢者の健康長寿の要因の解明に取り組んでいます。

教員紹介

検査技術科学専攻

伊藤 光宏（いとう みつひろ） 教授

○プロフィール
神戸大学医学部卒業、同大学院医学研究科修了。学振特別研究員を経て米国ロックフェラー大学に留学。血液内科医です。

○教育・研究分野など
臨床血液学を担当します。白血病など造血器腫瘍が専門です。最近は転写をキーワードに、生命現象とその破綻としての疾患の機序を、血液にこだわらず研究しています。

鴨志田 伸吾（かもしだ しんご） 教授

○プロフィール
神奈川県出身です。神奈川県JA伊勢原協同病院検査室で約16年間、藤田保健衛生大学医学部第一病理学で6年間勤務しました。

○教育・研究分野など
病理学に関連した科目とその実習を主に担当します。抗癌剤の効果予測を通じて癌個別化治療に貢献することを目標に、病理と臨床が連携した研究に取り組んでいます。

木戸 良明（きど よしあき） 教授

○プロフィール
昭和61年神戸大学医学部卒業。神戸大学医学部第二内科（現糖尿病・内分泌内科）勤務を経て、平成20年より現職。

○教育・研究分野など
臨床化学とその実習をメインで担当します。専門は糖尿病学であり、研究のテーマは糖尿病－特に膵β細胞不全－の発症機構の解明です。

白川 利朗（しらかわ としろう） 教授

○プロフィール
神戸生まれです。神戸大学医学部医学科卒業、同大学院博士課程修了。米国ヴァージニア大学泌尿器科に2年間留学しました。

○教育・研究分野など
臨床細菌学をメインで担当します。細菌、ウイルスなどの生物由来製剤を用いた新規治療薬（バイオロジクス）の研究開発を行っています。

中澤 港（なかざわ みなと） 教授

○プロフィール
学生時代から助手まで16年間、東京大学医学部保健学科人類生態学教室。山口県立大、群馬大を経て2012年から現職。

○教育・研究分野など
国際保健・疫学・公衆衛生学に関連する講義を担当。研究はＰＮＧやソロモン諸島でのフィールドワークが主。詳しくはwebで。
http://minato.sip21c.org/

柱本 照（はしらもと あきら） 教授

○プロフィール
京都生まれ、神戸大学医学部卒業。京都府立医大、米国国立衛生研究所（NIH）を経て2003年に神戸大学に戻りました。2012年より現職。

○教育・研究分野など
臨床免疫学を担当します。基礎研究（ベンチ）から臨床（ベッドサイド）に還元できるようなリウマチ性疾患の研究を進めていきます。

林 祥剛（はやし よしたけ） 教授

○プロフィール
人体病理学を専門にする病理専門医、細胞診専門医、細胞診指導医です。附属病院病理部で病理診断を行っています。

○教育・研究分野など
講義は、組織学、生化学Ⅱ、病理病態学、感染病理学、コア講義、バイオメディカルサイエンスAをしています。研究は、肝臓疾患、血液疾患、国際保健学について行っています。

堀 裕一（ほり ゆういち） 教授

○プロフィール
神戸大学医学部医学科卒業、同大学院博士課程修了、Stanford大学客員研究員、帰国後COE上級研究員を経て現在に至る。

○教育・研究分野など
外科が専門です。生化学と実習を担当します。研究分野は幹細胞生物学が専門で、癌研究や再生医学研究に興味がある学生をお待ちしています。

安田 尚史（やすだ ひさふみ） 教授

○プロフィール
神戸大学医学部医学科卒業。同第二内科、老年内科（総合内科）及び地域社会医学・健康科学講座を経て、平成24年より現職。

○教育・研究分野など
臨床生理学や総合画像診断学などを担当します。専門は、内科学（糖尿病、自己免疫、老年医学）で、１型糖尿病や慢性炎症性疾患の発症機構を研究テーマにしています。

入子 英幸（いりこ ひでゆき） 准教授

○プロフィール
麻布大学大学院 環境保健学研究科 博士後期課程修了。愛媛大学 博士研究員、鳥取大学 医学部 助教を経て、2014年より現職。

○教育・研究分野など
寄生虫検査学、公衆衛生学などを担当します。寄生虫の生物学に興味をもち、赤血球に寄生するマラリア原虫の寄生適応の仕組みを研究しています。

大﨑 博之（おおさき ひろゆき） 准教授

○プロフィール
高知県出身。香川大学大学院博士課程修了。15年間の病院勤務の後、香川・愛媛の県立大学を経て、2016年より現職。

○教育・研究分野など
基礎臨床検査学、病理学などを担当します。患者さんに苦痛を与えずに採取できる尿を用いて、泌尿器腫瘍や糸球体腎炎などを早期発見するための研究を行っています。

大澤 佳代（おおさわ かよ） 准教授

○プロフィール
長野県出身。信州大学理学部化学科卒業、神戸大学大学院医学系研究科博士後期課程修了、保健学博士。製薬および検査企業での勤務経験があります。

○教育・研究分野など
病原細菌や薬剤耐性細菌の遺伝子解析および背景因子を用いて、その伝播経路を探ることを主研究としています。また、癌の予防や転移に関わる遺伝子の解析も行っています。

亀岡 正典（かめおか まさのり） 准教授

○プロフィール
北海道大学大学院医学研究科修了。奈良県立医大、阪大微研、日本・タイ感染症共同研究センターなどの勤務を経て保健学科に着任。

○教育・研究分野など
専門分野はウイルス学です。ヒト病原性ウイルス、特にHIVやデングウイルスの基礎研究や分子疫学研究に従事しています。ウイルス感染症や国際保健に関する教育を担当しています。

駒井 浩一郎（こまい こういちろう） 准教授

○プロフィール
筑波大学生物学類卒業。同大学院修了後、民間企業研究員として勤務後、神戸大学助手を経て現職。博士（医学）、日本リウマチ学会評議員。

○教育・研究分野など
専門：分子生物学、免疫学。研究テーマ：遺伝的多型や遺伝子発現変動による生体機能への影響の解明。
教育：分子生物学、免疫学、統計情報科学に関する各科目。

重村克巳（しげむら かつみ） 准教授

○プロフィール
大阪出身です。泌尿器科医です。現在も神戸大学附属病院で臨床医の傍ら、感染制御部室員としても活動しています。

○教育・研究分野など
臨床細菌学を主に担当しています。研究分野は感染症の遺伝子診断・癌の新規治療の開発・低侵襲手術（ロボット手術など）の技術開発です。国際的共同研究も活発に行っています。

森 正弘（もり まさひろ） 准教授

○プロフィール
一般内科医を経て、医学研究者（神経生理学）として歩んできました。皆さんの保健学学習を応援したいと思っています。

○教育・研究分野など
正常な脳の働きとそのメカニズムを、神経の電気信号を記録、解析して、解明し、認知症、統合失調症など脳精神疾患の予防、診断、治療に貢献しようと努力しています。

小瀧 将裕（こたき ともひろ） 助教

○プロフィール
神戸大学保健学科卒業、同大学院保健学研究科修了。神戸大学インドネシア拠点常駐研究者として約2年間勤務しました。

○教育・研究分野など
ウイルス学実習・寄生虫学実習を担当します。主にデングウイルス、HIVの研究を行ってきました。ワクチン、診断薬、治療薬開発につながる研究をしたいと考えています。

理学療法学専攻

長谷川 菜摘（はせがわ なつみ） 助教

○プロフィール
神戸大学保健学科検査技術科学専攻卒業。同大学院保健学研究科修了後、京都第一赤十字病院検査部勤務を経て現職。

○教育・研究分野など
臨床での経験を活かし、様々な実習、特に血液学実習や生理学実習に貢献できればと思っています。研究では転写因子をキーワードに様々な病態の解析に携わりたいです。

三好 真琴（みよし まこと） 助教

○プロフィール
神戸大学大学院博士課程修了後、香川県立保健医療大学で勤務しました。

○教育・研究分野など
短鎖脂肪酸投与による侵襲下病態のコントロール、特に腸管への効果について研究中です。

秋末 敏宏（あきすえ としひろ） 教授

○プロフィール
兵庫県出身。神戸大学医学部卒、同大学院医学研究科修了、医学博士。米国クリーブランドクリニックに約2年間留学。2014年より現職。

○教育・研究分野など
整形外科医です。整形外科・リハビリテーションに関連する講義を担当します。整形外科学（特に腫瘍学）の基礎から臨床まで研究を行ってきました。多職種連携での運動器疾患に対する研究を推進したいと思います。

石川 朗（いしかわ あきら） 教授

○プロフィール
北海道出身。札幌医科大学保健医療学部より2011年に本学に赴任しました。

○教育・研究分野など
専門分野は呼吸理学療法・呼吸リハビリテーション、高齢者・障害者の生活環境です。その分野において臨床データからエビデンスを構築することが、ライフワークです。

藤野 英己（ふじの ひでみ） 教授

○プロフィール
岡山大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了、医学博士。7年間の臨床を経験した後に大学で教育・研究に携わって来ました。

○教育・研究分野など
物理治療学や運動学を主に担当します。筋萎縮、糖尿病、心疾患、ガンに対する包括リハビリテーションについて、運動、物理療法、栄養サポートを用いた研究や無重力研究を行っています。

森山 英樹（もりやま ひでき） 教授

○プロフィール
鹿児島県出身。広島大学大学院保健学研究科修了。埼玉県立大学、広島大学などを経て、現在に至ります。

○教育・研究分野など
筋骨格系理学療法学を主に担当しています。運動器障害に対する理学療法の科学的根拠を創出し、有効性を立証するために、基礎医学的及び統計学的手法を用いた研究を行っています。

荒川 高光（あらかわ たかみつ） 准教授

○プロフィール
名古屋大学医療技術短期大学部卒。理学療法士。神戸大学医学系研究科・神経発生学分野（旧第一解剖）博士課程修了。

○教育・研究分野など
肉眼解剖学的手法を主に用いた人体解剖学・比較解剖学が専門です。とくに骨格筋とその神経支配を追及しています。

井澤 和大（いざわ かずひろ） 准教授

○プロフィール
佐賀県出身。筑波大学大学院修了。理学療法士として聖マリアンナ医科大学病院に20年間勤務しました。

○教育・研究分野など
おもに循環器・代謝性疾患に対し、「臨床現場から出る疑問を科学的に検証し、還元すること」を目指して臨床・研究していました。

小野 玲（おの れい） 准教授

○プロフィール
大阪生まれで、本校を卒業後、東北大学医学部附属病院で臨床を行いました。

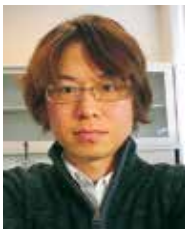
○教育・研究分野など
授業はADL実習、神経系疾患理学療法、地域理学療法などです。大学院時代に臨床疫学に興味を持ち、運動器疾患の疫学調査や色んな疾患のエビデンス作りを行っています。

小野 くみ子（おの） 助教

○プロフィール
岡山県出身。本学理学療法学専攻卒業後、臨床・大学院での研究生活を経て、H19年10月より本学に着任しています。

○教育・研究分野など
臨床で糖尿病患者が多いことを実感し、大学院で学んだ運動生理学をベースに、現在では内部障害、特に糖尿病の理学療法について教育・研究を行っています。

前重 伯壮（まえしげ のりあき） 助教



○プロフィール
大阪市出身。本学理学療法学専攻卒業後、病態解析学領域博士後期課程を修了。2013年11月に本学着任。

○教育・研究分野など
物理療法の組織修復・再生に対する効果および至適刺激条件の解明、各種慢性潰瘍の予防・管理方法の確立をテーマとして、高齢社会への貢献を目指しています。

作業療法学専攻

古和 久朋（こわ ひさとも） 教授

○プロフィール
1995年東京大学医学部卒業。2004年同大学院修了。MGH留学後2010年より神戸大学神経内科講師・准教授。2017年より現職。

○教育・研究分野など
神経内科医で臨床神経学や臨床生理学などを担当します。研究テーマはアルツハイマー病などの認知症の予防や早期発見につながる社会システムの構築です。

種村 留美（たねむら るみ） 教授

○プロフィール
広島大学大学院保健学研究科大学院博士前期後期課程修了。京都大学医学部保健学科准教授を経て現在に至ります。

○教育・研究分野など
教育については身体障害作業療法学と実習等を担当します。研究分野は、①高次脳機能障害の評価開発および介入技法や社会支援、②認知症の在宅支援について研究しています。

教員紹介

橋本 健志（はしもと たけし） 教授

○プロフィール
徳島大学医学部卒業、神戸大学大学院博士課程修了。メリーランド大学研究員、神戸大学附属病院精神科病棟医長・講師などを経て、現職。

○教育・研究分野など
精神医学、精神障害リハビリテーション学などを担当。
薬物療法家だが、薬だけでなく心理社会リハも、人に役立つものは科学になると信じる。

長尾 徹（ながお とおる） 准教授

○プロフィール
神戸大学医療技術短大卒、作業療法士免許取得。同大学博士課程修了、保健学博士。三木市立三木市民病院勤務から本学へ。

○教育・研究分野など
身体障害領域の作業療法が専門。研究では主に作業療法の基礎的部分について実施していますが、技術的には工作を好んで行う傾向にあります。

野田 和恵（のだ かずえ） 准教授

○プロフィール
作業療法士。神戸大学医学系研究科博士課程修了。2005年より現職。

○教育・研究分野など
専門分野は身体障害作業療法（主に脳血管障害）。認知症高齢者の独居生活支援。高齢者の家電の研究に取り組んでいる。身体障害生活技術論や義肢装具学などを担当。

林 敦子（はやし あつこ） 准教授

○プロフィール
東北大学文学部卒業。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。東北大学大学院医学系研究科を経て現在に至ります。

○教育・研究分野など
臨床心理学、高次脳機能障害学などの授業を担当。脳損傷者や認知症者の認知機能障害について研究しており、リハビリや介護に活かせる知見を得ることも目標です。

四本 かやの（よつもと） 准教授

○プロフィール
大阪堺生まれです。近畿リハビリテーション学院卒業後、作業療法士として精神科病院で約10年間働きました。その後、神戸に移り教員生活のほうが長くなりました。家族は夫と犬（まるこ）です。

○教育・研究分野など
精神保健の作業療法関連科目とその実習を主に担当します。精神障害や精神科疾患になっても、希望を失わなくて済むための方法の発見が研究のゴールです。

内田 智子（うちだ ともこ） 助教

○プロフィール
神戸市出身。神戸大学医療技術短期大学部卒。本学博士課程後期課程修了。三田市民病院で約10年間臨床勤務を経て現職。

○教育・研究分野など
授業は生理学実習、動作解析実習や身体障害作業療法関連科目を担当します。研究は、利き手を損傷した人の非利き手によるペン操作の特性の解析をテーマにしています。

篠川 裕子（ささがわ ひろこ） 助教

○プロフィール
新潟県出身です。作業療法士として北九州市立総合療育センター等で勤務し、県立広島大学大学院修士課程を修了しました。

○教育・研究分野など
発達障害に対する作業療法に関する講義を担当します。発達障害のあるこどもさんの発達的特徴と生活支援について研究を行っています。

渡部 貴史（わたべ たかし） 助教

○プロフィール
新潟県出身。名古屋大学大学院卒業。作業療法士。名古屋市の精神科病院での臨床を経て、2015年より現職。

○教育・研究分野など
専門は精神障害に対する作業療法です。主に統合失調症や発達障害の病理やリハビリについて研究を行っています。精神障害とインターネットの関係にも興味があります。

特命教員

堀田 博（ほった ひろし） 特命教授

○プロフィール
1974年大阪大学医学部卒業。1977年から神戸大学に奉職（医学部微生物学講座）。1994年教授就任。2015年定年退職、名誉教授。同年より保健学研究科特命教授。

○教育・研究分野など
専門はウイルス学（とくに肝炎ウイルスなど）。分子疫学、病原性発現機序、ワクチン、抗ウイルス薬の開発に興味を持っています。

靱 千恵（うつぼ ちえ） 特命助教

○プロフィール
静岡県立大学大学院薬学研究科博士課程修了。薬剤師。感染症国際共同研究で中国とインドネシアに7年間常駐勤務しました。

○教育・研究分野など
肝炎ウイルスの増殖機構、肝炎ウイルス・デングウイルスに対する抗ウイルス物質探索やワクチン開発を行っています。

山本 暁生（やまもと あきお） 特命助教

○プロフィール
神戸大学大学院保健学専攻、University of Birmingham（公衆衛生）修了。横浜市で勤務（保健師）。東京大学大学院博士課程修了（学術）。

○教育・研究分野など
運動発達をテーマに主に小児の立位姿勢制御について研究しています。特任助教としてバンドー化学工業と神戸大学の産学連携活動に従事する予定です。

写真で見る神戸大学

正門

神戸大学百年記念館

深江キャンパス

楠キャンパス

六甲台本館

鶴甲第一キャンパス

鶴甲第二キャンパス

六甲台第二キャンパス　桜

六甲台第二キャンパス

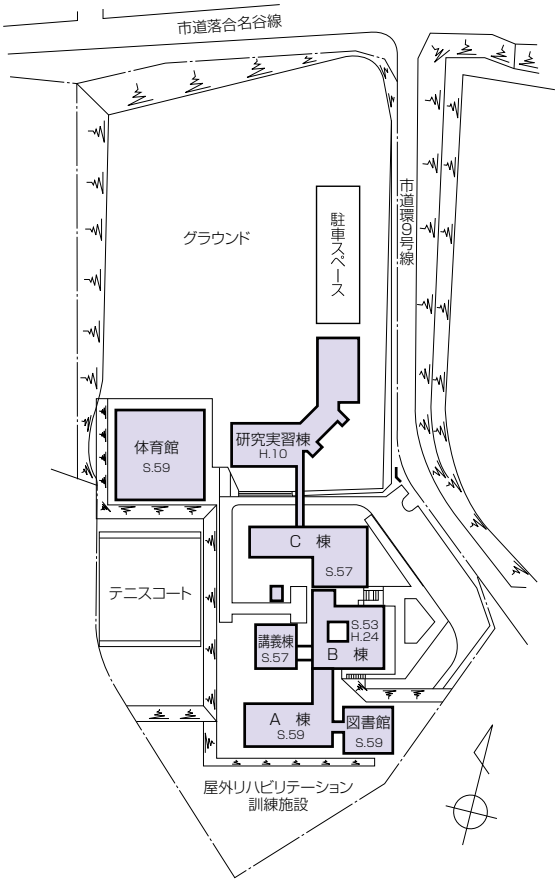
六甲台第二キャンパス　紅葉

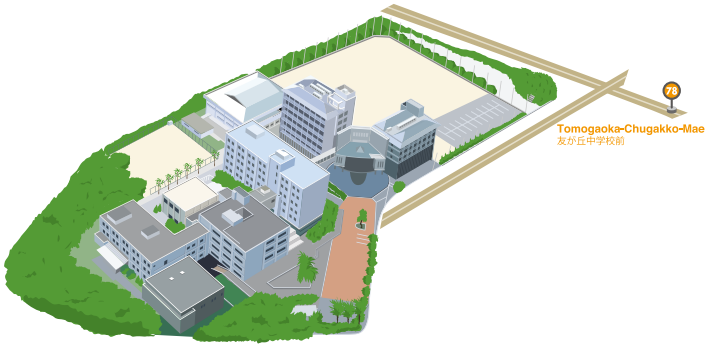
キャンパスシーン

食堂

情報処理教室

売店





ラーニングコモンズ

自習室

大学祭

私たちの大学生活

看護学専攻

messeage

私は、患者さんに寄り添い側で支えていける看護師になりたいと思い、看護学を専攻しました。本学では、他専攻や医学科、薬科大の学生と共に学習する機会を通して、多職種連携の中での看護師の役割についてより深く学ぶことが出来ます。

学校生活では、講義と実習だけでなく、部活やサークル活動などの課外活動を両立させている学生も多く、充実した日々を送っています。休日には、友人との遊びやバイトなど、息抜きもしながら学習を進め、様々な経験を通して将来の医療職者として成長していくことが出来る環境です。写真はタイの病院やチェンマイ大学での実習風景です。

Time Table

	月	火	水	木	金	土･日
1時限目	講義	講義	講義	講義	講義	バイト、遊び。Afterや土日に部活やサークル活動を楽しんでいる学生もたくさんいます。
2時限目	講義	講義	講義	実習	講義	
3時限目	講義	講義	講義	講義	実習	
4時限目	講義	講義	講義	講義		
5時限目	実習	講義		講義		
After			バイト		バイト	

高校生へのアドバイス

2013年度より国際分野の実習が選択できるようになり、タイの大学病院への留学が出来るようになりました。自分の興味のある分野や、将来やりたいことがきっとみつかると思います。皆さんの入学、是非お待ちしています。

検査技術科学専攻

messeage

私は、患者さんの診断を決定する上で重要となる検査の実際を知り、患者さんにとってよりよい検査結果を提供し、患者さんの病態に関して正確な診断の手助けをしたいと考え、検査技術科学を専攻しました。

学校生活では、実習で多くの先生方に臨床において重要となる技術や専門知識を教えていただき、また名谷祭では素敵な先輩方や友人と一緒に学園祭を盛り上げたりと非常に充実した日々を送っています。将来的には、検査技術科学専攻で身に付けた高度な専門知識や技術を活かして、医療従事者として、病院・企業から必要とされる人材を目指したいと考えています。

Time Table

	月	火	水	木	金	土･日
1時限目		講義	講義	講義	講義	アルバイト、遊びなど、サークル活動に励んでいる学生もいます。
2時限目	講義	講義	講義	講義	講義	
3時限目	実習	実習	講義	実習	実習	
4時限目	実習	実習	講義	実習	実習	
5時限目				実習	実習	
	アルバイト		アルバイト			

高校生へのアドバイス

実習では、実際に臨床検査で用いられる検査技術を体験したり、講義で様々な専門知識を学ぶことができます。非常に多くの内容を学習するので、その中から自分に興味のある分野を見つけることができると思います。

理学療法学専攻

messeage

もともとスポーツに関わる仕事がしたくて、スポーツトレーナーに関連した国家資格でもある理学療法士になることを決めました。理学療法士になるための様々な勉強を重ね、さらに実習を通して実際に患者さんの治療に関わることで、理学療法士が患者さんの人生に与える影響がいかに大きいかを実感することができ、自分も患者さんの人生を変えられる存在になりたいと思うようになりました。理学療法士という職業は、患者さんにとって最も身近な存在であり、非常に責任の大きい職業ですが、それだけやりがいのある仕事だと思います。

Time Table

	月	火	水	木	金	土･日
1時限目	実習	授業	授業	授業	授業	部活・サークル・遊び・バイト・勉強など
2時限目	実習	授業	授業	授業	授業	
3時限目	授業	実習	授業	実習	実習	
4時限目	授業	実習	授業	実習	実習	
5時限目	授業	実習		実習	実習	
	バイト	サークル	バイト		バイト	

高校生へのアドバイス

受験勉強はやる時とやらない時の切り替えが大事だと思います。しっかりと計画を立てて、勉強をしない時間は思い切り自分の好きなことをしてストレスを発散してください。たまに人に勉強を教えるのも、勉強したことを整理できていいと思います。

作業療法学専攻

messeage

私は、人と関われる仕事がしたいと思い医療系の学部を選択しましたが、「作業療法士」という職業がどのようなものか全く知りませんでした。作業療法士は「ひとは作業をすることで元気になれる」という考え方に基づいて、障害を持った方が再び生き生きと暮らせるよう手助けをします。４年間の授業や実習を通して徐々に作業療法の魅力や可能性を感じ、今ではとても素敵な職業だと思います。病院以外でも作業療法士の活躍できる場はあります。“自分の理想とする作業療法士”を目指し、仲間たちと共に頑張ります。

Time Table

	月	火	水	木	金	土･日
1時限目	講義	講義	講義	講義	講義	サークル、アルバイト、課外活動、遊びなど
2時限目	講義	講義	講義	実習	講義	
3時限目	講義	講義	講義	実習	実習	
4時限目	実習	実習	講義	実習	実習	
5時限目	実習	実習		実習		
			アルバイト		アルバイト	

高校生へのアドバイス

受験勉強は大変でストレスも大きいと思いますが、息抜きも忘れずに頑張ってください。勉強だけでなく、何事も経験だと思っていろんなことにチャレンジしてみてください。その経験はきっとどこかで役に立つと思います！応援しています！

卒業生からのメッセージ

看護学専攻

看護師として働き始めて 12 年目になります。就職した時は集中治療室に配属となり、そこで約 5 年半を過ごしました。今は小児科病棟で働いています。

集中治療室での 5 年半はあっという間でした。重症な患者さんを目の前にして戸惑うこともありましたが、優しくもあり厳しくもあった先輩たちのご指導のもと、多くの事を学ぶことができました。集中治療室は命を救う場であり、治療が優先されます。しかし、そんな中でも、看護の視点を忘れずに患者さんと向き合うことを心がけてきました。治療が最優先になる場であるからこそ、患者さんが置き去りにならないように、患者さんの思いに寄り添えるような看護を目指してきました。患者さんが生活者であるということも忘れずに、少しでもその人らしく過ごせるようにと、何度もディスカッションを繰り返したこともいい思い出になっています。それには、看護師だけでなく医師や理学療法士、臨床工学技士など、さまざまな職種のかかわりがありました。患者さんを中心に、ある 1 つの目標に向かってそれぞれの専門職が自分たちのできることを一生懸命探していました。大学で学んだチーム医療を肌で感じることができました。

就職して 3 年目になった頃からは、後輩指導にかかわる機会も多くなりました。大学で出会った先生の影響もあり、もともと教育には興味がありましたが、実際に指導にたずさわるようになり、さらに教育について学びを深めたいと思うようになりました。院内の教育指導者コースを受講し、教育指導者として部署教育の中心を担っていたこともありました。指導をする中で、後輩から学ぶことや気づかされることがたくさんありました。また、他部署の教育指導者の人との情報交換もいい刺激になりました。大変な事もありますが、楽しさややりがいを感じています。

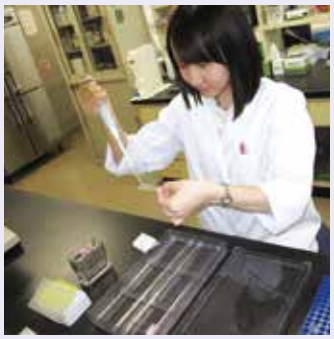
今までの多くの人との出会いが、私を成長させてくれました。神戸大学では多くの人と出会うことができます。多くの人と出会い、さまざまな考え方に触れて、こころ豊かな医療従事者を目指して頑張って欲しいと思います。

神戸大学を卒業して、早十数年が経とうとしています。私は卒業後、小児科専門病院での看護師、大学院修士課程での学生生活を経て、現在は大学で教員をする傍ら、子どもとその家族により良い看護ができるよう小児看護専門看護師としての活動も行っています。

学生時代の私は決して優秀な学生ではなく、勉強はかなりおろそかにしてはいましたが、4 回生の卒業研究で指導をうけながら、病気をもつ子どものお父様の話を聞き、卒業研究として、まとめ上げたことは強く記憶に残っています。その中で、先生には自分自身が考えていたことを大切にしてもらえましたし、そのことは、現在、自分が実習指導をする際に、学生が自分で気づいたことを深め、必要な看護を考え、実践できるような指導を心掛けていることにつながっていると思います。また、神戸大学医学部保健学科は他専攻の学生と一緒に学ぶ環境があり、それぞれがどのような専門性をもっているのかを知ることができたことは、今の私の活動に役に立っていると思います。

現在でも学会や大学院において、お世話になった先生方とお会いする機会があり、いつも温かい声をもらい、相談に乗ってもらうなどしています。受験生の皆さんにとって、現在の私は遠い未来のことで想像し難いとは思いますが、まずは神戸大学で看護の基本を学んでみてはいかがでしょうか。

検査技術科学専攻



私は検査技術科学専攻を卒業後、そのまま大学院に進学し、博士課程前期課程を終了しました。本学の検査技術科学専攻では、臨床検査技師の国家資格取得を目指して臨床検査に関わる知識と技術を学ぶだけでなく、最先端の研究に携わることができます。学部４年では各自が興味を抱く研究室に所属し、卒業研究を通して研究の基礎を学びますが、私はさらに深く学びたいと考え、大学院進学を決意しました。

私が所属した研究室では癌化学療法の個別化の実現・普及を目指し、治療効果を予測できるバイオマーカーの研究を進めています。この個別化治療とは、個々の患者さんに適した治療を選択して実施することで、治療効果やQOLを高められると期待されています。もちろん、研究は簡単なものではありませんが、患者さんの役に立てると信じ、２年間努力しました。このような貴重な経験を通して、自分の課題に責任をもってやり遂げることや周囲と密なコミュニケーションを取り合うことといった、社会人にとって大切なものも学ぶことができました。さらに研究と並行して、癌診断に深く関わる「細胞検査士」という資格を取得するための基礎知識を学びました。このように、研究に加え、より専門性の高い検査の知識を身につけることができたのも、大学院進学による貴重な経験だったと思います。

検査技術、そしてそれをより発展させる研究に興味のある方は、ぜひ本学の検査技術科学専攻と大学院で学んでみてはいかがでしょうか。私は、この神戸大学・神戸大学大学院で過ごすことができ、本当に良かったと思っています。

私は現在、臨床検査技師として病院で働いています。病院内には多くの臨床検査部門が存在します。患者さんの血液や尿などを化学的に分析し情報を得る臨床化学検査、感染症の原因となる微生物の同定を行う細菌検査、直接患者さんに接して生体検査を行う心電図検査や超音波検査など、それぞれの臨床検査から得られる情報は医師が正確な診断や治療をするために欠かせない存在です。私は臨床検査部門の中で病理検査という業務を担当しています。病理検査とは、病変を含む身体の組織や細胞を患者さんから採取し、肉眼的・顕微鏡的に観察したのち、良性・悪性の診断や病気の進行度を決定する検査です。私の仕事内容は、その病理診断のために採取された組織や細胞の標本を作製することです。病理検査は、疾患部位そのものから採取された標本を扱うため、正確な診断に一番近いとても大切な検査であると思います。そのため、責任感や集中力が必要な業務ですが、それだけやりがいと充実感があります。

私は本学の検査技術科学専攻で、臨床検査技師として働くための基礎を築くことができました。特に４年生の卒業研究では、最も興味があった病理学に関する研究を選択し、その後の仕事にも関わる専門的な知識や技術を身につけることができました。

私は在学中、互いに高め合い、支え合うことの出来る多くの友人と出会うことができました。それらの友人は就職してからも医療従事者として一緒に成長し、励まし合えるとても大切な存在です。一人でも多くの方々が本学の検査技術科学専攻に興味を持ち、また、素敵な大学生活を送っていただければうれしいです。

卒業生からのメッセージ

理学療法学専攻

タイ留学先の教員および院生との集合写真

私は神戸大学を卒業後すぐに神戸大学大学院に進学しました。大学院においては、研究をメインに行いながら、週に３回ほど、病院で理学療法士としても働いています。将来的には病気の予防という観点から、理学療法士として社会に貢献していきたいと思っています。現在はタイの大学に短期留学中でその傍ら皆さまにメッセージを書いています。これから、私は“神戸大学で学べて良かった”と感じる点を述べていきたいと思います。

まず一つ目に周りの学生のレベルが高いことです。ここでいうレベルとは単に頭の良さだけではなく、人間性や行動力などを含みます。そのようなレベルの高い環境の中に身を置くことで、学習やキャリア設計に関して高いモチベーションを保ちつづけることができました。

二つ目に教育についてです。私は大学時代、理学療法学生の団体に所属していました。その活動を通して、他大学との教育方法の違いも知りました。その中で神戸大学の一番の特徴として感じたのは、受け身ではなく、自主性を重んじる教育が徹底されていたことです。神戸大学での教育を通して、理学療法士に必要な知識や技術だけでなく、“学び方”を学ぶことができたことは、私の人生における大きな財産となっています。

三つ目に人の縦横の繋がりが強いことです。同学年だけでなく、先輩、後輩、先生との繋がりも密であり、そして、卒業生との繋がりも強いのが特徴です。神戸大学の卒業生は多方面で活躍されている方が非常に多く、とても多くの刺激やチャンスをいただくことができました。

ここまで“神戸大学で学べて良かった”点を文字数の関係上、三つに限定して紹介してきました。もし少しでも神戸大学に興味があるという方は、ぜひ大学まで足を運び、学生の生の声を聞きに来て下さい。OBとして、いつかあなたに会えるのを楽しみにしています。

WCPT Congress 2015 in Singapore

私は神戸大学を卒業し理学療法士免許を取得後に大学院を修了し、その後に海外留学を経て現在は研究職として生活を続けています。

研究では骨や筋肉にできるがんを治療した患者さんの歩き方や身体機能を解析しています。この病気の治療では腫瘍のある骨や筋肉を取ったり、時には手足を切断したりしなくてはならないので患者さんの生活にはかなり支障が出るのですが、珍しい病気であるためなかなか治療した後のリハビリテーションに関する情報がありません。それならば自分が研究しようと思い、現在に至ります。大学院を出た後もイタリアの病院の先生に直接頼み込み、約１年間留学することも出来ました。留学中は上司や同僚・ルームメイトにも恵まれ、研究成果も出たのですが、研究以外でもイタリアの医療や生活環境の日本との違いを直に感じられ、とてもよい経験となりました。

現在は国立障害者リハビリテーションセンターの研究所で働いています。ここは医療職だけではなく、神経生理学者、エンジニア、社会学者、さらには行政の関係者まで関わっていて、その独特な環境から多くのことを学びつつ、理学療法、リハビリテーション医療の発展に今後少しでも貢献できるよう研究を進めています。

大学入学からもう10年以上が経ってしまいましたが、学科の同期とは今でも連絡を取り合い、留学前も皆で集まり送り出してもらいました。よい友を得られたと思います。在学当時は学年が上がり講義が名谷のみとなっても、授業終了後に部活のために六甲まで通っていました。同じ部活だった他学部の友人達も今ではそれぞれの道を進んでいますが、今でも仕事の合間に集まって楽しい一時を過ごしています。このようなことを振り返ると、総合大学である神戸大学を選んでよかったと感じます。神戸大学ならではのさまざまな分野にアクセスできる環境を最大限活用し、ぜひ充実した大学生活を送っていただければと思います。

作業療法学専攻

私は現在、作業療法士として精神科の病院で働いています。病院には様々な疾患の方が入院されていますが、同じ疾患でも症状の現れ方が人により様々です。その異なる様々な状態を理解するには、実際の経験と多岐にわたる具体的な知識が必要です。しかし、その根本にはその典型例の理解、基礎的な症例の知識が不可欠です。神戸大学では基礎を重視した内容の授業を行っているため、「なぜ」「どうして」という根本の部分からしっかり学ぶことができます。

また、私達の仕事は人を対象としており、特に精神科における作業療法では自分自身も患者さんの回復をサポートする有用な道具の一つとなり得ます。そのため、患者さんの症状だけでなく、長所や性格、思いや希望、過去や環境など様々なことを含めて一人一人についてその人を知ることが大切です。その上で、その人らしい生活が送れるよう共に考えお手伝いをするわけですが、その際、私一人でなく、その患者さんと関わる他職種のスタッフと連携することが必須です。この点でも神戸大学には他職種との協力を学ぶ授業もあり、とても役に立っています。

また、専門授業は少人数制であるため、各分野で活躍されている先生方のご指導や、目標を同じにする仲間との学びは自分自身についての理解も深め、医療職に携わるにあたっての人間性のみならず、社会人としてのマナーも身に付きます。熱心な先生方は卒業後も親身に相談にのってくださり、共に学んだ仲間とは現在も切磋琢磨し、良い刺激としてスキルアップへの活力となっています。皆さんも、財産となる学びや出会いを神戸大学で得てみませんか！

私は現在、回復期の病院で作業療法士として働いています。私の病院では、脳血管障害をはじめ、神経難病、脊髄損傷といった様々な疾患の患者様が社会復帰をしていく手助けを行っています。

作業療法では、機能訓練や、訓練室内のトイレや浴槽など模擬的な場面を利用した日常生活訓練、調理などの家事動作訓練、趣味活動へのアプローチなどを行い、必要な人にはさらに、外出訓練や、自宅訪問をして自宅環境の調整や動作指導なども行っています。他にも、患者様がここち良い生活が出来るよう、便利な道具を作ったり、動作の指導もしています。一人一人に必要なことが異なるので、毎回試行錯誤が必要となり、そのおかげで日々新鮮で楽しいです。また、できなかったことが一人でできるようになった時の患者様の笑顔と「ありがとう」の一言は、本当に作業療法士をやっていて良かったなと感じる瞬間です。

神戸大学では、親身な先生方が多く、人数が１学年あたり 20 人と少ないので、丁寧な指導をして頂きました。私が好きであった基礎作業学の授業では、陶芸や編み物など多くの活動を体験し、治療に必要な作業について学びました。その知識は、楽しみを取り入れたリハビリを提供する上でも、今非常に役立っています。在学中には、病院実習、解剖学実習、実技練習などもあり、座学以外からも多くのことを学べます。また、卒業した今でも、先生方や先輩・後輩を含めた勉強会も定期的に開催されています。４年間、実習やテストなど大変なことも多いですが、かけがえのない仲間たちに出会え、多くの事を学び経験でき、充実した学校生活が送れると思います。受験勉強は大変だとは思いますが、夢に向かって頑張って下さい。

CLUB & CIRCLE

保健学科サッカー部

保健学科サッカー部は、毎週水曜日の放課後18:30、土曜日の10:30から活動しています。現在は人数とグラウンドの関係から主に体育館でフットサルをしており、サッカーやフットサルの大会に出たり夏には合宿を行ったりしています。

人数は30人程度で、保健学科以外から参加している部員もいます。初心者も多く、男女で楽しくサッカーしています。

名谷バスケットボール部

名谷バスケ部は毎週月・金曜日の授業後に活動しています。自由なバスケをモットーにみんなで試合をして楽しんでいます。男子・女子関係なく、他専攻との人とも仲良くなれます。夏と冬の合宿ではキャンプやスノボに行くなどしています。

名谷国際交流サークル

名谷国際交流サークルとは留学生の神戸での生活サポートや観光をしたり、留学生との交流機会の企画を行うことで留学生と学生つなぐ活動を行っています。定例会が月に1回、金曜日のお昼休みにあります。

1番大きな行事はタイのチェンマイ大学の学生さんを迎えてサポートや観光することです。英語が話せなくても海外に行ったことがなくてもまったく心配ありません！

創部2年めのサークルだからこそ、みなさんが新しいことを考えて作っていけるサークルです！かけもちもOKです！

先輩、後輩が仲良く楽しく活動しているのでみなさんが来てくれることを楽しみに待ってます＼(^^)／

茶道部

私たちは毎週金曜日15時頃から名谷キャンパスの和室で、講師の先生をお招きして茶道や華道のお稽古に励んでいます。

大学から始めた初心者がほとんどで、先輩・後輩とても仲良く、楽しい雰囲気で茶道部ならではの作法を学ぶことができます。名谷祭ではお茶会を開き、練習の成果を披露することもできます。

和室でまったりする時間もなかなか良いものですよ！名谷に通うなら、ぜひ一度見学にいらしてください。待ってまーす！！

手話サークルぺんぺん草

手話サークルぺんぺん草は、手話を楽しく学ぶことを通じて聴覚障害者の生活や文化を理解することを目的として活動しています。普段の活動は、週二回昼休みに名谷キャンパス内で行っています。内容は主に、手話を使ったゲームや会話などです。また、月に一回と長期休暇に六甲キャンパスのぺんぺん草のメンバーや他大学、社会人の方と合同活動を行っています。活動を通じて、聴覚障害者とどう関われるのかも考えています。

園芸部

園芸部は今年三年目になる若いクラブです。テニスコートの奥にある畑でサツマイモやトマト、キュウリ、ナスなどの夏野菜、大根、カブ、白菜など様々な野菜を作っています。種まきや苗の植え付けなどは日時を決めて全員でやりますが、それ以外に決まった活動日はなく、昼休みや放課後に畑に出てちょっと水やりや草抜きをしたら、もう立派な園芸部員です。育っていく作物を見ていると心が癒されますし、自分たちが育てた野菜は格別です。去年の夏にピザを焼くための窯を作りました。畑で採れた野菜でピザやホイル焼きなど様々な料理を作り、部員以外の学生や先生方と楽しんでいます。少しでも興味がある方、どなたでも大歓迎です!

その他

硬式テニス部、C.C.

INFORMATION

1 入学定員・取得学位等

専攻名	修業年限	入学定員	第3年次編入学定員	取得学位	国家試験受検資格
看護学専攻	4年	80人	10人	学士(看護学)	看護師
検査技術科学専攻	4年	40人		学士(保健衛生学)	臨床検査技師
理学療法学専攻	4年	20人		学士(保健学)	理学療法士
作業療法学専攻	4年	20人		学士(保健学)	作業療法士
合計		160人	10人		

2 入学志願者数（平成29年度）

専攻		看護学	検査技術科学	理学療法学	作業療法学
社会人特別選抜	募集人員	4	1	2	2
	志願者数	5	2	3	1
前期日程	募集人員	66	29	13	13
	志願者数	130	97	46	61
後期日程	募集人員	10	10	5	5
	志願者数	103	88	38	47
計	募集人員	80	40	20	20
	志願者数	238	187	87	109
入学者数		84	41	20	20

3 国家試験合格状況（平成29～27年実施分）

試験種類	平成29年度		平成28年度		平成27年度	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
看護師	76	76	85	83	76	76
保健師	3	2	15	12	76	72
助産師	−	−	−	−	5	5
臨床検査技師	43	38	41	35	44	40
理学療法士	25	25	17	13	19	19
作業療法士	21	20	16	16	19	18

4 平成28年度卒業者の就職先等の状況

専攻	卒業者数	就職者数	県内就職					県外就職				進学者数	その他
			神大病院	国公立病院	公的機関	私立病院	民間	国公立病院	公的機関	私立病院	民間		
看護学専攻	75(1)	58	17	3	3	5	0	17	2	10	1	14	3
検査技術科学専攻	38	14	0	1	0	6	0	0	1	3	3	24	0
理学療法学専攻	21	11	1	1	1	2	0	0	4	1	1	11	0
作業療法学専攻	22	17	0	3	0	6	0	0	0	6	2	5	0
計	156(1)	100	18	8	4	19	0	17	7	20	7	54	3

※（ ）内は平成28年9月末卒業者人数で内数を表す。
※就職かつ進学した者1名を含む。

神戸大学医学部保健学科の沿革
神戸大学附属図書館保健科学図書室

神戸大学医学部保健学科の沿革

昭和24年４月　兵庫県立医科大学附属高等看護学院設置
42年６月　国立に移管
44年４月　医学部附属衛生検査技師学校設置
53年８月　須磨区友が丘（名谷地区）の現地に移転
56年10月　専門学校に換わる医療技術短期大学部に看護学科、理学療法学科、作業療法学科を設置
平成６年10月　短期大学部に換わる神戸大学医学部保健学科に看護学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻を設置
11年４月　大学院医学系研究科保健学専攻（修士課程）設置
13年４月　大学院医学系研究科保健学専攻（博士課程）設置
16年４月　国立大学法人法の施行に伴い、設置者が「国立大学法人神戸大学」となる
20年４月　大学院保健学研究科博士課程設置
28年４月　大学院保健学研究科保健学専攻博士課程前期課程に保健師コース及び助産師コースを設置

神戸大学附属図書館保健科学図書室

保健科学図書室は名谷キャンパスに設置され、専門科目の学習・研究に必要な図書・雑誌が収集・整理されています。

また、インターネット利用や文書作成のためのパソコンも設置され、快適な学習の場となっています。

（２年生以上は、医学分館への申し込みにより、医学分館の24時間特別利用が可能です。詳細は医学分館ホームページをご覧ください。）

●開館時間

通常期		休業期	
平日	土曜日	平日	土曜日
8：45 ～ 21：00	10：00 ～ 18：00	8：45 ～ 17：00	休館

●蔵書冊数（平成29年３月現在）

	図書	雑誌
和書	52,051冊	822種類
洋書	8,746冊	199種類
計	60,797冊	1,021種類

利用交通機関
- 神戸市営地下鉄西神山手線「名谷駅」下車、南東へ徒歩15分。
  （神戸市営地下鉄「三宮駅」～「名谷駅」間約20分）
- 市バス・78系統「友が丘中学校前」下車徒歩3分。

◉ 印は他線との乗換え可能な駅を示す。

神戸大学医学部保健学科

〒654-0142　神戸市須磨区友が丘7丁目10番2

TEL　(078) 796-4504
FAX　(078) 796-4509